

冬（12～2月）の天候

2021年（令和3年）冬（12～2月）の日本の天候は、冬の前半に強い寒気の影響を断続的に受けましたが、東・西日本と沖縄・奄美で暖冬となりました。降雪量は西日本日本海側でかなり多く、降水量は東日本日本海側でかなり多くなりました。日照時間は、西日本で記録的に多くなりました。

2021年（令和3年）冬（12～2月）の天候の特徴は以下のとおりです。

○冬の前半に強い寒気の影響を断続的に受けましたが、東・西日本と沖縄・奄美で暖冬となりました

冬の前半に強い寒気が流れ込んだ時期がありましたが、後半は寒気の南下が弱く、また、北日本付近を通過する低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ時期もあったことから、冬の気温は東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高くなりました。冬の前半と後半で気温の変動が大きくなりました。

○冬の降雪量は西日本日本海側でかなり多く、冬の降水量は東日本日本海側でかなり多くなりました

冬の前半に強い寒気が流れ込んだ影響で、記録的な大雪となった所もあり、冬の降雪量は西日本日本海側でかなり多くなりました。また、冬の後半には北日本付近を低気圧が通過することが多かったため、冬の降水量は東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多くなりました。

○冬の日照時間は、西日本で記録的に多くなりました

冬の後半を中心に、冬型の気圧配置が長続きせず寒気の南下が弱かったことや、高気圧に覆われやすかったため、西日本日本海側と西日本太平洋側では、平年比がそれぞれ126%、118%と統計開始以来1位の多照となりました（統計開始は1946/47年冬）。

別紙（概況、統計値等）[PDF形式:735KB]

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko2021djf_besshi.pdf

問合せ先：大気海洋部 観測整備計画課 担当 村井(観測値や記録について)
電話 03-6758-3900 (内線 4277) FAX 03-3434-9035
大気海洋部 気候情報課 担当 中三川(天候の解説について)
電話 03-6758-3900 (内線 4547) FAX 03-3434-9123